

今月のトピック

政治

◆ドネフ暫定内閣の発足と解散総選挙(10/2)へ向けた動き

経済

◆天然ガスの調達・蓄積・価格に関する動向

※月報は、ブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治

◆ドネフ暫定内閣(選挙管理内閣)の発足と解散総選挙(10月2日)へ向けた動き

▶2日、ラデフ大統領は、第47回国民議会を解散し、ドネフ暫定首相を首班とする暫定内閣(選挙管理内閣)を任命した(別添:ドネフ暫定内閣閣僚名簿)。解散総選挙は10月2日に実施されることが決定した。

▶なお、ドネフ内閣は歴代100番目の内閣、同じ大統領により任命された第4番目の内閣という前例の無い内閣となる。同日、ラデフ大統領は大統領府でドネフ暫定内閣発足に際する記者会見を開き、暫定内閣の優先事項として、地理的に近接した地域で戦争が起こっている状況下での国家安全保障体制の維持、食糧危機の危険性回避、汚職との闘い、公正な選挙を挙げた。また、ラデフ大統領は、ドネフ暫定内閣は、政治対立に伴う社会的疲弊、冬期に際するガス不足、劣化した道路インフラと関係組織による抗議活動、EU復興計画に関する立法の欠如等により構成される困難な状況での国家運営を担当することになる等と述べ、これら問題への取組を内閣の重要課題として課した。

▶発足間もないドネフ暫定内閣の下で、8月の間に多くの人事交代が行われた。28県中25県の県知事その他、警察組織の幹部、国家歳入庁長官、税関長、道路インフラ庁幹部、高速道路庁長官等が交代した。また、10月2日の解散総選挙を前に、ラデフ大統領や暫定内閣関係者、GERB等によるペトコフ前内閣のエネルギー政策・対応に関する厳しい批判が繰り広げられた。また、右に対する「変革を継続する(変革党)」や社会党(BSP)等による反論も展開され、メディアを通じた非難応酬合戦が継続している。

▶26日には、有名ショーマンでもあり政治家でもある「こんな国民もいる(TISP)」党首のスラヴィが、大統領制導入に関する民意を問うための国民投票を主導するとのビデオメッセージを発出した。

▶31日、中央選挙委員会は、10月2日の解散総選挙には合計29の政党及び連合が参加すると発表した。

◆8月の世論調査結果

▶8月15日から22日にかけて、世論調査会社「TREND」が実施した世論調査結果は以下のとおり。

1 ポイント

(1) ブルガリア国民の最大の懸念は高い物価。

(2) 政治面では、前与党「変革を継続する(変革党)」の支持がやや縮小し(19.6%)、第一党GERB(24.4%)との差は5%に。国民の65%が10月の解散総選挙後の通常内閣の発足を希望。

2 調査結果

(1) ブルガリアが直面する最大の問題

高い物価／インフレ／価格ショック	40%
エネルギー危機／ガス・電気・石油価格の上昇	19%
貧困／貧困化	11%
低収入／低い生活水準	9%
汚職	9%
質の悪い国家運営	8%
失業率	5%
政治的不安定性	5%
経済危機	4%
健康・医療	3%
他	

(2) ドネフ暫定政権支持率

支持	32%
不支持	34%
わからない	34%

(3) 各党支持率(括弧内は7月の数値)

GERB・UDF	24.4%(23.6%)
変革党*	19.6%(21.4%)
「権利と自由のための運動(MRF)」	10.6%(10.7%)
再生党	10.3%(9.6%)
BSP*	8.6%(9.8%)
民主的ブルガリア*	7.3%(6.9%)
「ブルガリアの台頭」	4.5%(5.7%)
TISP*	3.9%(3.8%)
「立ち上がれブルガリア！」	1.9%(1.6%)

(* = 前与党)

経 済

◆天然ガス調達状況

▶8月現在、ロシアからのガス供給の停止に伴い、ブルガリアでは天然ガス調達ルートの確保が喫緊の課題となっている。現在調達ルートとして主に話が出ているのは、①米国からのLNG船による天然

ガスの輸入、②ギリシャ＝ブルガリア間のインターコネクターによるガス供給、③ガスピロム社との交渉によるロシアからの輸入。

▶LNG 船による米国からの輸入に関しては、港湾スロットの確保が鍵となっている。暫定政権のフリストフ・エネルギー大臣は、タンカー1隻分(10月分)について、トルコにある港湾スロット枠の契約に成功するも、11月以降についてはまだ港湾スロット確保の目途がついていないと述べた。

▶暫定政権は、ギリシャ＝ブルガリア間のインターコネクターによるガス供給について、10月1日に開通予定と発表。なお、同インターコネクターを通じたガスはアゼルバイジャン産となる見込み。

▶8月、ガスピロム社との交渉を再開するか否かが世論の一番の関心事となった。暫定政権はガスピロムとの新規契約交渉を行うのではなく、既存契約の未行使分の執行するための交渉であることを強調しているが、ロシアからのガス供給を行うべきか否かで、世論は二分された。

◆天然ガス蓄積状況

▶現在 EU 諸国ではエネルギー供給の安定性を確保するため、10月末までに最大貯蔵量の80% 11月末までに同90%までガスを貯蔵することを求められている。8月末現在、EU 全体で80%を超える貯蔵量が確保されている。

▶一方で、ブルガリアについては、最大貯蔵量の約6割しか貯蔵できていない。順調にいけば、期日までに EU の要求を達成できる計算となっているが、今後の天然ガス調達状況次第では、貯蔵量に影響が及ぶ可能性がある。

◆天然ガス価格の高騰

▶ガス不足に伴い、ここ数か月のガス料金は高騰の一途を辿っており、7月の186BGN/MWh が8月には297BGN/MWh、9月には 353BGN/MWhと2か月で約2倍に上昇している。

▶今後ガス消費量が増加する冬場を迎えるにあたり、ドイツではガス消費量抑制のための施策(一時金の配布、公共施設での暖房上限温度の設定、ライトアップ時間の限定等)も発表されており、ブルガリアも天然ガス調達状況次第では日常生活に何かしらの制限が入ることが想定されている。

指標	月／四半期(Q)
GDP 成長率	+4.8%(Q2・速報値(修正あり):年率換算)
消費者物価指数	+11.3%(7月:前年12月比) +17.3%(7月:前年同月比)
失業率(登録者数)	4.2%(7月)(=same figure as June)
公的債務残高/GDB(含む国及び地方)	22.9%(暫定値)(Q1時点)(=new data not available)

※ブルガリアのマクロ経済指標は、ブルガリア国立銀行HPよりご覧になれます
(https://www.bnb.bg/Statistics/StMacroeconomicIndicators/index.htm?toLang=_EN)。

ドネフ暫定内閣
(2022年8月2日発足)
閣僚名簿

2022年8月現在
在ブルガリア日本大使館

肩書	氏名
首相	ガラブ・ドネフ
副首相(EU基金管理)	アタナス・ペカノフ
副首相(社会政策)兼労働・社会政策大臣	ラザル・ラザロフ
副首相(経済政策)兼運輸・通信大臣	フリスト・アレクシエフ
副首相(治安と安全)兼内務大臣	イヴァン・デメルジエフ
財務大臣	ロシツァ・ヴェルコヴァ
国防大臣	ディミタル・ストヤノフ
保健大臣	アセン・メジディエフ
地域開発・公共事業大臣	イヴァン・シシュコフ
教育・科学大臣	サショ・ペノフ
外務大臣	ニコライ・ミルコフ
法務大臣	クルム・ザルコフ
文化大臣	ヴェリスラフ・ミネコフ
環境・水大臣	ロシツァ・カラムフィロヴァ
農業大臣	ヤヴォル・ゲチェフ
経済・産業大臣	ニコラ・ストヤノフ
エネルギー大臣	ロセン・フリストフ
革新・成長大臣	アレクサンダル・ブレフ
観光大臣	イリン・ディミトロフ
青年・スポーツ大臣	ヴェセラ・レチェヴァ
電子政府大臣	ゲオルギ・トドロフ